

前期の遠隔授業の現場とその 課題——非常勤講師の場合

話題提供者：木下由紀子

(神戸女子大学名誉教授、京都大学国際高等教育院非常勤講師、
関西学院大学文学部・国際学部非常勤講師)

Abstract

- 1) 前期において非常勤講師(英語)として遠隔授業にかかわった経験をなるべく分析的に振り返り、
- 2) 遠隔授業の実施に際して、演習を主体とする語学関連科目を担当する非常勤講師が直面した問題(IT技術の習得、IT環境、授業準備とフィードバックにかかった過重な負担、孤立感など)について情報共有していただきつつ、
- 3) 非常勤講師が個人レベルでは対処しにくいのが、おそらく教育機関としての大学が(短期的及び長期的に)提供しうる支援の形を考察し、提案する

1. 個人的状況

2015年に本務校を退職、ロンドン大学(Queen Mary)客員研究員(2015年前期)を経て、同年後期より京都大学(国際高等教育院)、関西学院大学(文学部及び国際学部)で非常勤講師として英語を中心に教鞭をとる。常勤職から非常勤職に移り、常勤時代には気づかなかった非常勤講師の抱える問題が意識されるようになった。

2020年前期の担当科目 6コマ (5種類の授業準備) *

*** 本務校を持たない非常勤講師としては例外的に少ない。多くの非常勤講師が10コマ以上を担当。**

- 京都大学で2コマ：
 - 「リーディング」 (文学部1回生39名)
 - 「ライティング」 (工学部1回生17名)
- 関西学院大学文学部で英語3コマ：
 - 「英語」 (リーディング中心) 2コマ
 - 英文学専修2回生25名
 - 文学部2回生上級クラス 約40名
 - 「英語」 (コミュニケーション中心) 文学部1回生 約45名
- 関西学院大学国際学部で講義科目1コマ：
 - Cultures in the USA 国際学部2回生から4回生 約40名

遠隔授業のスタイル

- 授業はすべてOn-demand型（基本的に音声を伴わない）で授業資料と課題をLMS上にUP。その都度、学生に対しLMSを使用して、授業資料と課題がUPされた旨のアナウンスメントと取り組み方について指示を送信。英文テキストの講読を中心とする科目については基本的にクラスごとにForumを開き、質問等を受け付ける。また、質問は大学のメール、課題サイトからも受け付けた
- Zoom等を活用したOnline型の授業の必要性は感じていたが、以下に述べる事情により、「原始的」なOn-demand型にとどまってしまった。

2. 遠隔授業に際し問題となったこと

1) 始動時にかかえた問題

- 授業の方針にかかわる情報の不足・遅れ
- 大学および学部によって異なる方針への対応
- IT環境の不備・不安
- 教材資料や作成に必要な備品の不足、不備
- LMSの全面的使用にかかわる問題

i) 技術の習得

ii) LMSシステムのダウンやメンテナンス（による休止）

- (物理的) **時間不足**

前期の公式な開始は5月上旬。しかし「準備期間」には主として授業計画の関係でを行わねばならず、遠隔授業の準備が整わないままスタート。

2) 深刻化していった問題

同僚の非常勤の声：

「とにかく一言でいえば、時間に追われ過労死寸前だったということです。[.....] 大学で教えている教員は、[...] 普段からオンとオフの区別なく授業や研究にあたっているのに、今回のオンライン授業では、**オフが完全ゼロ**になったという感じでした。**非常勤がおかれている状況（日頃から複数の大学で多くのコマ数を担当している）は、それをさらに過酷にした**と思います。」

① 時間不足 （次第にエスカレート）

特に6月～7月半ば：生理的的必要時間以外はすべて働いてなおギリギリあるいは足りない

② 授業の実践にかかわる情報の不足

この授業の形でよいのか？ほかの先生方はどのようにやっているのか？授業スタイルの移行はいったい可能か？

③ 精神的ストレス・健康への不安・孤立感

際限のない仕事→エコノミー症候群、眼精疲労、運動不足（散歩に出る暇もない）、恒常的な疲労感

同僚との意見交換がない・学生の反応がわかりにくい→意欲の低下（「強制労働」感）、孤立感

深刻な時間不足*はなぜ起こったのか

*例えば、生活のために週15コマあるいはそれ以上を担当する非常勤、（おそらくその多くが）子育て中の非常勤、被介護者のいる非常勤はといったいどのように対応できたのだろう。

i) (語学系の演習科目にかかわる) **授業資料・課題作成**

⇒これまでの「蓄積」がほとんど活かさない状況

演習科目 ⇒ 講義科目へ

- ・ 一からの授業 (講義) 資料作成
- ・ 「課題」の再吟味

ii) 学生への漏れのない**細かい指示**・個別対応

iii) **LMSを使ったフィードバック**の功罪

iv) 毎週の課題と**対応すべき学生数**

3. 今後に向けて

- 1) (京大の取り組みに見られるような) 恒常的な同一科目担当者の「**教員懇談会**」の開催、
また、その実質化。⇒**ネットワーク作り**またはその基盤作り
- 2) **遠隔授業学習会** (Zoom会議、意見交換会) の定期的開催
→最新かつ有効なIT技術・遠隔授業方法の習得に向けて
- 3) **Internet環境・備品**の整備援助 (貸し出し)
- 4) 大学封鎖の場合に**授業準備室**などの使用をひきつづき特例的に認める
- 5) (できれば) 一定額の**授業準備・教材費**の支給
- 6) (できれば) **クラスサイズ**の適正化
e.g. Writingを主とする授業では15人前後, Communicationを主とする授業では20人前後,
Readingを主とする授業では25名前後
- 7) (できれば) コマ当たりの**給与**の引き上げ
→授業の**質保証**
→非常勤講師の**生活を保障**